横芝光町民ギャラリー企画展図録

縄文土器
1万年の足跡

横芝光町教育委員会

はじめに

横芝光町は、千葉県東部にあって、南東に太平洋の波が洗う九十九里平野が広がり、北西には侵食が進んだ下総台地が横たわり、その間を栗山川が流れる変化に富んだ地形に恵まれ、里山と田園が広がる緑豊かで温暖なところである。そこには古くからの遺跡が、台地や平野の各所に残されていて、古代から人々が暮らすのに良好な環境であったことが想像される。

今日、横芝光町には縄文時代の遺跡が約２０箇所ほど確認され、最古は草創期から、新しくは晩期末まで、それも各時期にわたって連綿と存在する。一部衰退した時期もあるが、ある時期には大きな集落が営まれたり、また貝塚が形成されたり、さらに縄文から弥生へと変化する学問的に貴重な遺跡もある。これだけひとつの町で縄文時代全体を観ることが出来るのは、県内においても全国的にも希有な例であり、町の誇るべき大きな財産である。

今回は町から出土した縄文土器を網羅的に提示し、この町の縄文土器の凄さを改めて知って頂きたいと思い企画した。縄文土器と言えば通常縄文時代に作られた土器を指すが、先にも述べたように本町内には縄文時代から弥生時代に遷ろうとする土器もあり、その評価も議論の余地のあるものである。また、弥生時代でも縄文文様を付けた土器も有り、今回は縄文・弥生時代の枠をはずして、縄文文様を付けた土器ということで「縄文土器」を展示した。あわせて御覧頂ければと思います。

目次

はじめに
目次
１．草創期 ----------1
２．早期 ----------1
３．前期 ----------11
４．中期 ----------13
５．後期 ----------34
６．晩期～弥生 ----------36
おわりに

この図録は、平成２９年１０月7日から１２月１７日まで、横芝光町立図書館２階町民ギャラリーで開催された企画展「縄文土器―その造形と機能美」に展示した町内出土の土器を掲載したものである。掲載土器の大きさ（縮尺）は一定していない。本書の執筆、編集は社会文化課町民ギャラリー担当道澤が当った。

1. 草創期

縄文時代草創期は今から１万４千年前頃に始まったと云われ、世界でも最も早く日本では土器作りが始まった。はじめは無文であったが、次第に爪形のような文様、粘土紐を貼付けた隆起線文、そして縄文をつけた土器が現われた。

町内では篠本神山谷遺跡で隆起線文土器、城山遺跡からは表裏に縄文を付けた土器が出土している。

1　隆起線文土器

2　表裏縄文（多縄文）土器

2. 早期

早期は今から１万年前から7千年前頃で、土器は底が尖った尖底土器と呼ばれるが特徴で、文様は縄文や細紐を巻き付けた棒状の施文具で付けた撚糸文、篦で付けた沈線文、棒状の施文具に豆形や山形に彫刻し、それを回転しながら付けた押型文、赤貝類で付けた条痕文など、時期を追って変化する。撚糸文系では古い方から井草式、夏島式、稲荷台式、花輪台式、沈線文系では三戸式、田戸下層式、田戸上層式、条痕文系では子母口式、野島式、鵜ガ島台式、茅山式などの土器形式名が当てられている。

町内では長倉宮ノ前遺跡、木戸台遺跡、篠本遺跡群など、台地上の遺跡から出土し、後葉の条痕文土器群は住居跡や炉穴などの遺構に伴う例が多い。

3　撚糸文系土器　井草式（長倉宮ノ前遺跡出土）

4　撚糸文系土器　夏島式（宮ノ前遺跡出土）

5　撚糸文系土器　夏島式（宮ノ前遺跡出土）

6　撚糸文系土器　井草・夏島式（篠本神山谷遺跡）

7　撚糸文系土器　稲荷台・花輪台式（篠本神山谷遺跡）

8　撚糸文系土器　花輪台式（篠本城山遺跡）

10　撚糸文系土器　花輪台式（篠本城山遺跡）

11　撚糸文系無文土器　花輪台式
（篠本城山遺跡）

12　撚糸文系無文土器　花輪台式
（篠本城山遺跡）

13　撚糸文系無文土器　花輪台式（篠本城山遺跡）

14　沈線文系土器　田戸下層式（篠本神山谷遺跡）

15　沈線文系土器　田戸上層式（篠本神山谷遺跡）

16　沈線文系土器　田戸上層式（篠本城山遺跡）

17　条痕文系土器（木戸台遺跡）

18　条痕文系土器　子母口式（篠本神山谷遺跡）

3. 前期

前期は、今から7千年前から5千年前頃で、土器は安定感のある平底に変わり、口縁が山形に波打つような形が多くなる。平底の土器が増えたことは、住居を構えるようになり、定住化が進んだ事によると考えられる。土器型式では花積下層式、関山式、黒浜式、諸磯a・b・c式、浮島式、十三菩提式、興津式などがあり、前半期は縄文を多用した文様が多いのに対し、後半期は箆での沈線文や刺突文、貝殻を使ったコンパス文・爪形文などに代わる。特筆されるのは前半期の縄文では、普通の単節縄文だけでなく、縄を結びつけた結節文、太い縄に細い縄を絡み付けた付加縄文、組紐文など、およそ考えられる縄文がこの時期に登場している。

町内の遺跡では、篠本の神山谷遺跡から関山式、黒浜式、諸磯式、浮島式、興津式が出土し、同遺跡では黒羽式期の住居跡が３軒検出されている。また、同じ篠本遺跡群の新台遺跡では諸磯a式土器が、住居跡から出土している。

19　縄文深鉢形土器　関山式（篠本神山谷遺跡）

20　波状口縁縄文土器　黒浜式（篠本神山谷遺跡）

半裁竹管文

付加縄文

21　縄文深鉢形土器　黒浜式（篠本神山谷遺跡）

22　波状口縁深鉢形土器
諸磯a式（篠本新台遺跡）

23　内湾口縁深鉢形土器
諸磯b式

24　算盤玉状浅鉢形土器
諸磯a式

25　獣面把手付深鉢形土器　諸磯b式

26　沈線文深鉢形土器　浮島式

27　押し引き文・輪積み痕文深鉢形土器　興津式

前期後葉の土器（22を除き篠本神山谷遺跡）

4. 中期

中期は、縄文時代でも最も栄えたときで、作られた土器も最も大きく、文様や装飾が豪快に勢い良く付けられているものが多い。しかし、初期には未だ前期の名残を示して地味な文様であり、終末期には全体的に衰えて文様が単純になると云う経過を辿る。また、この時期は、人々の交流も活発になったと思われ、土器によっては他地域の影響を受けたり、そのものが搬入されたような土器もある。土器の形も豊富になり、深鉢形だけでなく、浅鉢形や有孔鍔付土器、器台など、用途不明なものまで現われて来る。

土器型式では、五領ヶ台式に始まり、阿玉台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ式、加曽利E1・2・3・4式などがあり、これらに混じって勝坂式や曽利式、大木式、馬高式などが影響を与えている。

町内の遺跡も、この時期には増加して、大集落が発見された東長山野遺跡初め、姥山貝塚、中台貝塚、木戸台貝塚、虫生駒込遺跡、篠本神山谷遺跡など、あちこちに散在する。また、この時期には貝塚が形成され、土器とともに貝殻も出土する。

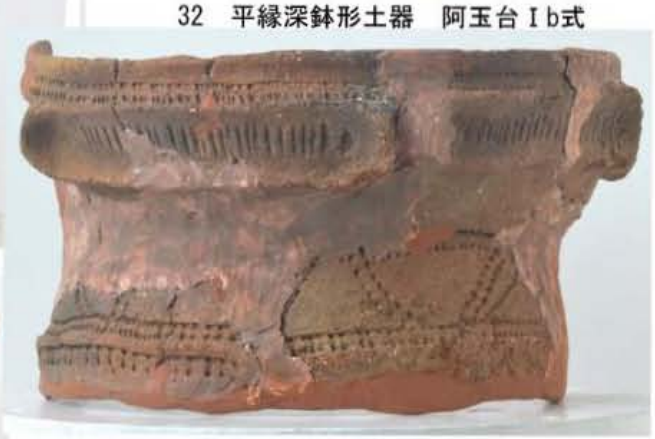
28　深鉢形土器　五領ヶ台式(篠本城山遺跡)

29　深鉢形土器　五領ヶ台式・阿玉台Ⅰ式土器（東長山野遺跡）

30　扇状把手付深鉢形土器　阿玉台Ⅰb式（東長山野遺跡　推定高120cm）

31　平縁深鉢形土器　阿玉台Ｉb式(高さ33.2cm)

32　平縁深鉢形土器　阿玉台Ｉb式



33　平縁深鉢形土器　阿玉台Ｉb式

34　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ｉb式

35　平縁浅鉢形土器
阿玉台Ｉb式

36　平縁浅鉢形土器
阿玉台Ｉb式

37　波状口縁浅鉢形土器　阿玉台Ｉb式(推定口径55.0cm)

38　平縁把手付浅鉢形土器　阿玉台Ｉb式(器高22.4cm)

39　平縁浅鉢形土器　阿玉台Ｉb式(推定口径40.6cm)

中期前半の土器(東長山野遺跡)

40　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅱ式(推定高50.0cm)

41　平縁深鉢形土器
阿玉台Ⅱ式

42　平縁深鉢形土器　阿玉台Ⅰb式

中期前半の土器（東長山野遺跡）

43　深鉢形土器の扇状把手
阿玉台Ⅰb式

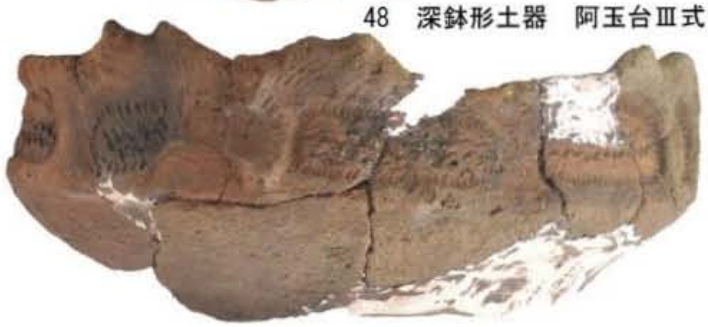
44　深鉢形土器の
口縁装飾
阿玉台Ⅰb式

45　深鉢形土器の口縁文様
阿玉台Ⅰb式

46　深鉢形土器の把手　阿玉台Ⅲ式

47　深鉢形土器　阿玉台Ⅲ式

48　深鉢形土器　阿玉台Ⅲ式



49　深鉢形土器　阿玉台Ⅲ式

50　深鉢形土器　阿玉台Ⅲ式(推定高26.0cm)

51　深鉢形土器　阿玉台Ⅲ式(推定高37.0cm)

中期前半の土器(東長山野遺跡)

52　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高28.0cm）

53　把手付深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高29.0cm）

54　把手付深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高32.0cm）

55　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式

中期中葉の土器（東長山野遺跡）

56　把手付深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高32.0cm）

57　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高36.0cm）

58　把手付深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高38.0cm）

59　把手付深鉢形土器　加曽利EⅠ古式
（推定高33.0cm）

中期中葉の土器（東長山野遺跡）

60　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高33.0cm）

61　波状口縁深鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（推定高33.0cm）

62　波状口縁把手付深鉢形土器
加曽利EⅠ古式
（器高36.8cm）

62上方から

↓　↓

62展開写真

63　波状口縁浅鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（口径45.8cm）

63上方から

66　土器台　加曽利EⅠ式
（推定高8.0cm）

64　波状口縁浅鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（口径47.2cm）

64上方から

67　土器台　加曽利EⅠ式（推定高8.0cm）

68　線刻のある土器台　加曽利EⅠ式

65　波状口縁浅鉢形土器　阿玉台Ⅳ式
（口径48.6cm）

65上方から

中期中葉の土器（東長山野遺跡）

69　把手付深鉢形土器　加曽利EⅠ式
（推定高42.0cm）

70　平縁深鉢形土器　加曽利EⅠ式（器高22.5cm）

71　平縁深鉢形土器　加曽利EⅠ式（器高40.0cm）

72　平縁深鉢形土器　加曽利EⅠ式（器高40.0cm）

73　把手付深鉢形土器
加曽利EⅠ式
（器高35.0cm）

74　平縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式
（推定高29.0cm）

75　平縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式（推定高28.0cm）

76　波状口縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式
（推定高30.0cm）

77展開写真

77　平縁深鉢形土器　加曽利E Ⅰ式（器高33.4cm）

78　波状口縁深鉢形土器　加曽利E Ⅰ式（器高37.0cm）

79　平縁把手付深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式(推定高22.0cm)

80　平縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式(推定高40.0cm)

81　把手付深鉢形土器　加曽利E Ⅰ式

82　平縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式(器高21.5cm)

83　波状口縁深鉢形土器　加曽利E Ⅰ式

84　波状口縁深鉢形土器
加曽利E Ⅰ式(器高21.1cm)

中期中葉の土器（東長山野遺跡）

85 波状口縁深鉢形土器
加曽利EⅠ式(推定高38.0cm)

86 平縁深鉢形土器
加曽利EⅠ式(推定高45.0cm)

87 平縁深鉢形土器
加曽利EⅠ古式(推定高44.0cm)

88 平縁深鉢形土器
阿玉台Ⅳ式(推定高35.0cm)

中期中葉の土器(東長山野遺跡)

89　赤彩把手・台付浅鉢形土器
加曽利EⅠ古式
（器高23.9cm）

89出土状況

90　平縁浅鉢形土器
加曽利EⅠ古式
（口径27.2cm）

91　赤彩把手付浅鉢形土器
加曽利EⅠ古式
（推定高17.0cm）

92　平縁浅鉢形土器　阿玉台Ⅳ式(推定口径52.4cm)

93　平縁浅鉢形土器　阿玉台Ⅳ式(推定口径42.5cm)

97　小型土器
阿玉台Ⅲ式
(器高4.5cm)

98　小型土器
阿玉台Ⅳ式
(器高2.7cm)

94　平縁浅鉢形土器　加曽利EⅠ古式(推定口径36.8cm)

95　平縁浅鉢形土器　加曽利EⅠ古式
(推定口径22.6cm)

96　平縁浅鉢形土器　加曽利EⅠ古式
(推定口径44.6cm)

中期中葉の土器（東長山野遺跡）

99　赤彩平縁浅鉢形土器
加曽利EⅠ式
(口径48.3cm)

100　把手付浅鉢形土器　加曽利EⅠ式(口径26.2cm)

103　有孔鍔付土器　阿玉台Ⅳ式

101　平縁浅鉢形土器　加曽利EⅠ式(口径26.5cm)

102　平縁浅鉢形土器　加曽利EⅠ式(口径21.5cm)

104　桶形土器　阿玉台Ⅳ式(器高16.2cm)

中期中葉の土器(東長山野遺跡)

105　西関東・信州系の土器　勝坂２式

106　西関東・信州系の土器　勝坂３式

107　越後系の土器
馬高式

中期中葉の他地域の影響を受けた土器（東長山野遺跡）

108　平縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式
（器高31.8cm）

109　波状口縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式
（器高35.2cm）

110　平縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式
（器高34.0cm）

111　波状口縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式
（器高33.2cm）

中期後葉の土器（東長山野遺跡）

112　平縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式
（推定高38.0cm）

114　平縁鉢形土器　加曽利EⅡ式

115　平縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式（推定高40.0cm）

113　平縁深鉢形土器
加曽利EⅡ式
（推定高38.0cm）

116　平縁鉢形土器
加曽利EⅡ式
（推定高27.4cm）

中期後葉の土器（東長山野遺跡）

117　平縁深鉢形土器　加曽利EⅡ式（口径50.0cm）

甕棺墓の出土状況

118　平縁深鉢形土器
加曽利EⅡ式（器高68.8cm）

119　浅鉢形土器　加曽利EⅡ式（口径48.0cm）

甕棺墓に使われた土器（東長山野遺跡）

120　小型土器　加曽利EⅢ式
（東長山野遺跡　器高9.2cm）

121　平縁深鉢形土器　加曽利EⅢ式
（東長山野遺跡）

122　平縁鉢形土器　加曽利EⅢ式
（東長山野遺跡　器高25.5cm）

123　平縁把手付鉢形土器　加曽利EⅣ式
（中台貝塚　器高15.4cm）

124
波状口縁深鉢形土器
加曽利EⅣ式
（中台貝塚
器高47.3cm）

125
波状口縁深鉢形土器
加曽利EⅣ式
（中台貝塚
推定高30.0cm）

中期末葉の土器

5. 後期

後期になると土器は、全体的に小振りになり、文様は箆書きの沈線でモチーフを描いたのが主流となり、立体的な文様は少なくなる。器形は深鉢、浅鉢に加え、注ぎ口の付いた注口土器が出現する。土器型式では、称名寺式、堀ノ内１・２式、加曽利B1・２・３式、曽谷式、安行１・２式がある。

町内では中台貝塚、姥山貝塚、芝崎中島遺跡のほか、低地でまれに単独で出土する。

126　深鉢形土器　称名寺式（中台貝塚）

127　深鉢形土器　称名寺式
（芝崎中島遺跡）

128　波状口縁深鉢形土器
堀ノ内１式
（芝崎中島遺跡　器高19.6cm）

129　波状口縁深鉢形土器　堀ノ内Ⅰ式（中台遺跡）

130　波状口縁深鉢形土器
加曽利B１式
（東長山野遺跡）

131　平縁深鉢形土器
加曽利B１式
（中台貝塚　器高11.0cm）

132　波状口縁浅鉢形土器
加曽利B１式
（中台貝塚　口径18.0cm）

133　波状口縁深鉢形土器
加曽利B１式
（中台貝塚　器高18.5cm）

134　平縁鉢形土器
加曽利B３式
（中台貝塚　器高18.6cm）

135　平縁鉢形土器
加曽利B１式
（中台貝塚
器高13.2cm）

136　台付き鉢形土器台部
加曽利B１式中台貝塚）

137　波状口縁
深鉢形土器
加曽利B１式
（姥山貝塚）

138　波状口縁深鉢形土器
加曽利B３式
（芝崎遺跡）

139　紐線文土器
加曽利B１式
（三反田遺跡）

140　波状口縁深鉢形土器
安行Ⅰ式（姥山貝塚）

141　波状口縁深鉢形土器
安行２式（姥山貝塚）

6. 晩期

晩期の土器は、全体に薄造り小型である傾向で、表面は磨かれて精緻に仕上げられ、硬質である。中には意識的に黒く作られ、漆器のような感触を有する。土器型式では安行３式、姥山式、前浦式千網式、荒海式があり、弥生土器へと変化する。

遺跡では姥山貝塚が主で、その近くに弥生に変わる宮ノ前遺跡がある。

142　波状口縁深鉢形土器
安行３a式（姥山貝塚）

143　波状口縁深鉢形土器
姥山式（姥山貝塚）

144　波状口縁深鉢形土器
姥山式（姥山貝塚）

145　波状口縁深鉢形土器　前浦式（東長山野遺跡）

146
壺形土器
安行３a式
(器高9.5cm)

147　浅鉢形土器　安行３a式

148　浅鉢形土器　安行３a式

149　深鉢形土器　安行３a式

150　浅鉢形土器　安行３a式

152　浅鉢形土器　安行３a式

151　浅鉢形土器　安行３a式

153　紐線文土器　安行３a式

晩期の土器(姥山貝塚)

154　広口壺形土器
千網式
（姥山貝塚　器高7.1cm）

155　壺形土器
千網式
（姥山貝塚）

156　深鉢形土器
千網式（姥山貝塚）

157　浅鉢形土器
千網式（姥山貝塚）

158　深鉢形土器　千網式（姥山貝塚）

159　浅鉢形土器　千網式（姥山貝塚）

160　深鉢形土器　荒海式（姥山貝塚）

162　浅鉢形土器　千網式（姥山貝塚）

161　深鉢形土器
千網式（姥山貝塚）

163　深鉢形土器　荒海式（篠本城山遺跡）

164　甕形土器
（篠本城山遺跡）

165　小型壺形土器
荒海４式（長倉宮ノ前遺跡）

166　浅鉢形土器
荒海４式（長倉宮ノ前遺跡）

167　甕形土器
荒海４式（長倉宮ノ前遺跡）

晩期末から弥生時代中期初頭の土器

168　壺形土器　南関東系久ヶ原式
（長倉鍛冶屋台遺跡）

169　甕形土器　北関東系
（長倉鍛冶屋台遺跡
器高11.4cm）

縄文を付した弥生時代の土器

おわりに

ここに掲載した資料は、紙数の関係から代表的なものを取り上げたにすぎない。このほかにも多くの土器があり、また破片も含めると膨大な数に上る。ここに示したように、横芝光町では、今から１万２千年前の縄文時代草創期から２千年前の弥生時代に代ろうとする時までの、約１万年の間の土器が連綿と出土している。中には一時的に欠けているものもあるが、このようにほぼ網羅的に縄文土器が観られる所は決して多くない。また、縄文時代が最も栄えた中期においては、町内でも大きな集落が形成され、その跡からは膨大な土器が出土し、ここに掲載した土器の多くを占めた。その土器を観ると、縄文時代人が多様な文化を持ち、いかに豊かな生活をおくっていたかが想像される。また、土器に観るその創造の豊かさは、縄文人の精神性が優れていたことを想起される。それはこの地の環境が豊かで、良好であったことを物語っている。今から５千年も前の土器を見ながら、これからもこの地の環境を受け継がれて行くことを望みます。

平成29年度企画展
「縄文土器　その造形と機能美」

発行日　平成29年10月７日
編集・発行　横芝光町教育委員会
印刷　三陽メディア株式会社